

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
29-56	高等学校	外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
177 増進堂	コⅢ 342	MAINSTREAM English Communication Ⅲ Second Edition Strategic Reading Focus Advanced		

## 1. 編修の基本方針

編纂に際しては、次の4点を基本方針とした。

- ① 学習指導要領並びに教育基本法第2条第1号から第5号の各号に書かれた目標を実現できるように、素材を厳選するとともに、各素材にその目標を達成するために有効な課題を用意すること。
- ② 生徒の多様な実態に応じて、弾力的な指導や学習ができるように、教科書と付属教材の両方に様々な工夫を盛り込み、教科書と付属教材との併用でも、また教科書のみでも、効果的な指導や学習が可能なように構成すること。
- ③ 本教科書を用いて指導しながら、多忙な教員でも、新しい指導法や指導技術を学ぶことができる「教師も学べる教科書」にすること。
- ④ ①～③のために、編著者たちのこれまでの多様な英語教育実践と英語教育研究の成果を適切に盛り込み、指導書等で詳しく解説すること。

## 2. 対照表

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	箇 所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	① 親が子に話す様子や内容から彼らの心情を深く読み取らせ、そこから豊かな情操と道徳心を培わせたい。 ② 電子書籍と紙の書籍二つの違いから本当に大切な物はなにかという真理を求める態度を養わせたい。	① 60,61 頁の各本文 ② 102,103 頁の各本文
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	① 山中教授の生き立ち、生き方考え方に触れさせることで、自主および自立の精神を養わせようとした。また教授の仕事に対する考え方や姿勢から勤労を重んずる態度を養わせたい。	① 122～125 頁の各本文
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	① マイクロファイナンスを通じての人々への平等な働きかけから、公共の精神や社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養わせたい。またその背景には大きな責任があることも同時に読み取らせたい。	① 22, 23 頁の各本文
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	① 水不足という生徒にとっても身近な水という存在に改めて触れさせ、自然や環境を守ろ	① 34,35 頁の各本文

	<p>うとする心を育てたい。</p> <p>② 江戸時代の生活スタイルから環境保全に寄与する態度を養わせたい。</p> <p>③ 蝶の持つ驚くべき生態について読ませ、生命の持つ力強さについて読み取らせたい。</p>	<p>② 84,85 頁の各本文</p> <p>③ 90,91 頁の各本文</p>
<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>① 嘉納治五郎の柔道に対する熱意と、彼の活動について読ませ、日本が世界へ通じる国へと成長した過程と彼の絶え間ない努力に触れさせ、日本人であることの誇りを学ばせたい。</p> <p>② スカイツリーの建築に関わる事例について読み取らせ、我が国の持つ技術の高さや、今後の発展に寄与する態度を養わせたい。</p>	<p>①16,17 頁の各本文</p> <p>②72,73 頁の各本文</p>

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

生徒にとって学びやすく、効率的に学習が進むように次のような工夫をした。

① 目的に応じた読み方を習得させる工夫。

英語学習の基本と考えられるフレーズ・リーディングやディスコースマーカーを用いた英文の読み方、未知の語や意味を推測しながら読む読み方、文書構成を意識させる読み方、図表との関連などを考えながらの読む読み方、小説・物語などの読み方、対話・討論などの読み方、それぞれを適宜簡潔にまとめて、明示し、またそれらを順次用いて各 Chapter を学習できるように工夫した。

② まとまりのある英文の理解度を的確にはかる工夫。

Chapter の Comprehension では、大まかな内容についての質問、細部についての質問なども入れながら行間を読み取らせる設問も適宜入れ、英文の背景なども読み取らせるよう工夫した。

③ Chapter で提示している英文。

提示された英文を読むことを目的としている。ここで言う「読む」とは黙読にとどまらず「音読」も視野に入れている。良質な英文の素材を提示し、コミュニケーション英語ⅠⅡで培った十分なコミュニケーション能力を自由に実践できるように工夫した。英文をプレゼンテーションしたり、その素材を使ってディスカッションを行えたりできるような素材としている。その手法は現場の教師が自由に選択できるようにあえて指示を控える工夫をした。

④ 語彙力を広げる工夫。

Vocabulary Building のページを設けた。「読む」「書く」はもちろんのこと「聞く」「話す」場面においても生徒の語彙力を広げられるように一覧で示し、効果的に学習できるように工夫した。

⑤ Listening Point がわかるように工夫した。

Listening 活動をする際に大切と思われる4つのポイントを明示し、音声的な特徴、相手に伝える際のポイントなどが生徒に伝わりやすいように工夫した。また、自らが発する場においてもこれらのポイントを活用することも想定した。

⑥ 分野別 Hot Topics における工夫。

6つの分野に分け、生徒の身の回りにおける社会情勢や日常生活における動きなどを簡潔にまとめた。生徒一人一人が社会生活において活用できる知識を吸収できるようにした。また脚注には関連語句を設け、日本語と英語からの双方向による知識の定着を図り、英語でのコミュニケーションを取る上でも重要と思われる語を収録した。

⑦ スムーズな学習の流れとなるように工夫をした。

難し過ぎるとと思われる語句や頻度が低い語句には注をつけた、また、アクセントや発音に注意すべ

き単語には印をつけて、生徒に意識させることができる工夫をした。

⑧ 復習の方法を明らかにした。

Comprehension では全体の英文の流れ、意味内容を把握させるために、英語による Summary と日本語による文構造が把握できる設問をいれた。

⑨ Exercise での工夫

本文で学んだ語彙をさらに広げるための設問と、重要な表現を再度取り上げた。コミュニケーション英語 I II で行ったような意見交換なども想定し、練習問題で定着させられることができる工夫をした。

⑩ Activity での工夫

各 Chapter で学んだことに対して、より発展的に学習を深められるような設問とし、リスニングもモノログとダイアログを適宜配置した。Listening Point とともに学習することも視野に入れ、本文で学んだ知識をより発展的に膨らませられるよう意識をした。また、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや、経験したことなどを元に、自発的にコミュニケーションがとれるよう指示文も工夫した。

⑪ Optional Reading での工夫

リーディングの能力を伸ばすことと、読書本来の「楽しさ」を生徒に経験してもらうために、本課の英文よりも長くて、感銘を受ける、感動的なものを用意した。

⑫ 生徒の多様な実態に応じて弾力的な使用ができるように配慮した。

各 Chapter の本文の指導は、付属教材に、フレーズ・リーディングが可能になるワークシートや、リスニングや音声をペースメーカーにしてリスニングしながら黙読する練習が行えるよう、本文を普通に朗読した音声教材と、フレーズ・リーディングのためのワークシートに入れられたスラッシュと同じ箇所ポーズ置いて朗読した音声教材の両方を用意している。また、Optional Reading は授業時間が不足した場合に、生徒の自学自習用教材として活用できるように配慮した。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
29-56	高等学校	外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
177 増進堂	コⅢ 342	MAINSTREAM English Communication III Second Edition Strategic Reading Focus Advanced		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ① 目的に応じた読み方を習得させる工夫。英語学習の基本と考えられるフレーズ・リーディングやディスコースマーカーを用いた英文の読み方、未知の語や意味を推測しながら読む読み方、文書構成を意識させる読み方、図表との関連などを考えながらの読む読み方、小説・物語などの読み方、対話・討論などの読み方、それぞれを適宜簡潔にまとめて、明示し、またそれらを順次用いて各 Chapter を学習できるように工夫した。
- ② まとまりのある英文の理解度を的確にはかる工夫。Chapter の Comprehension では、大まかな内容についての質問、細部についての質問なども入れながら行間を読み取らせる設問も適宜入れ、英文の背景なども読み取らせるよう工夫した。
- ③ Chapter で提示している英文。提示された英文を読むことを目的としている。ここで言う「読む」とは黙読にとどまらず「音読」も視野に入れている。良質な英文の素材を提示し、コミュニケーション英語 I II で培った十分なコミュニケーション能力を自由に実践できるように工夫した。英文をプレゼンテーションしたり、その素材を使ってディスカッションを行えるような素材としている。その手法は現場の教師が自由に選択できるようにあえて指示を控える工夫をした。
- ④ 語彙力を広げる工夫。Vocabulary Building のページを設けた。「読む」「書く」はもちろんのこと「聞く」「話す」場面においても生徒の語彙力を広げられるように一覧で示し、効果的に学習できるように工夫した。
- ⑤ Listening Point がわかるように工夫した。Listening 活動をする際に大切と思われる 4 つのポイントを示し、音声的な特徴、相手に伝える際のポイントなどが生徒に伝わりやすいように工夫した。また、自らが発する場においてもこれらのポイントを活用することも想定した。
- ⑥ 分野別 Hot Topics における工夫。6 つの分野に分け、生徒の身の回りにおける社会情勢や日常生活における動きなどを簡潔にまとめた。生徒一人一人が社会生活において活用できる知識を吸収できるようにした。また脚注には関連語句を設け、日本語と英語からの双方向による知識の定着を図り、英語でのコミュニケーションを取る上でも重要と思われる語を収録した。
- ⑦ スムーズな学習の流れとなるように工夫をした。難し過ぎるとと思われる語句や頻度が低い語句には注をつけた、また、アクセントや発音に注意すべき単語には印をつけて、生徒に意識させることができる工夫をした。
- ⑧ 復習の方法を明らかにした。Comprehension では全体の英文の流れ、意味内容を把握させるために、英語による Summary と日本語による文構造が把握できる設問をいれた。
- ⑨ Exercise での工夫本文で学んだ語彙をさらに広げるための設問と、重要な表現を再度取り上げ、練習問題とともに定着させられることができる工夫をした。
- ⑩ Activity での工夫各 Chapter で学んだことに対して、より発展的に学習を深められるような設問とし、リスニングもモノログとダイアログを適宜配置した。Listening Point とともに学習することも視野に入れ、本文で学んだ知識をより発展的に膨らませられるよう意識をした。また、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや、経験したことなどを元に、自発的にコミュニケーションがとれるよう指示文も工夫した。
- ⑪ Optional Reading での工夫 リーディングの能力を伸ばすことと、読書本来の「楽しさ」を生徒に経験してもらうために、本課の英文よりも長くて、感銘を受ける、感動的なものを用意した。
- ⑫ 生徒の多様な実態に応じて弾力的な使用ができるように配慮した。各 Chapter の本文の指導は、付属教材に、フレーズ・リーディングが可能になるワークシートや、リスニングや音声をペースメーカーにしてリスニングしながら黙読する練習が行えるよう、本文を普通に朗読した音声教材と、フレーズ・リーディングのためのワークシートに入れられたスラッシュと同じ箇所にポーズ置いて朗読した音声教材の両方を用意している。また、Optional Reading は授業時間が不足した場合に、生徒の自学自習用教材として活用できるように配慮した。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容 第3款第2コミュニケーション英語Ⅲ 2内容, 3内容の取扱い	該当箇所	配当 時数
Skill 1 Skill 2 Skill 3 Skill 4 Skill 5	2(1)イ, 3(2) 2(1)イ, 3(2) 2(1)イ, 2(2)ウ, 3(2) 2(1)イ, 2(2)イ, 3(2) 2(1)イ, 2(2)イ, 3(2)	6,7 頁 8,9 頁 10,11 頁 12,13 頁 14,15 頁	10
Chapter 1 本文 側注 True or False? Comprehension	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1)	16,17 頁 16,17 頁 17 頁 18,19 頁	3
Skill 6	2(1)イ, 2(2)イ, 3(2)	20,21 頁	2
Chapter 2 本文 側注 True or False? Comprehension	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1)	22,23 頁 22,23 頁 23 頁 24,25 頁	3
Skill 7	2(1)イ, 2(2)イ, 3(2)	26,27 頁	2
Chapter 3 本文 側注 True or False? Comprehension	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1)	28,29 頁 28,29 頁 29 頁 30,31 頁	3
Skill 8	2(1)イ, 2(2)イ, 3(2)	32,33 頁	2
Chapter 4 本文 側注 True or False? Comprehension	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1)	34,35 頁 34,35 頁 35 頁 36,37 頁	2
Skill 9	2(1)イ, 2(2)イ, 3(2)	38,39 頁	2
Chapter 5 本文 側注 True or False? Comprehension	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1)	40,41 頁 40,41 頁 41 頁 42,43 頁	3
Skill 10	2(1)イ, 2(2)イ, 3(1), 3(2)	44,45 頁	2
Chapter 6 本文 側注 True or False? Comprehension	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1)	46,47 頁 46,47 頁 47 頁 48,49 頁	3
Specialized Reading 1	2(2)イ, 3(2)	52,53 頁	2
Chapter 7 本文 側注 True or False? Comprehension	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1)	54,55 頁 54,55 頁 55 頁 56,57 頁	3
Specialized Reading 2	2(2)イ, 3(2)	58,59 頁	2
Chapter 8 本文 側注 True or False? Comprehension	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1)	60,61 頁 60,61 頁 61 頁 62,63 頁	3
Specialized Reading 3	2(2)イ, 3(2)	64,65 頁	2
Chapter 9 本文 側注 True or False? Comprehension	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1)	66,67 頁 66,67 頁 67 頁 68,69 頁	3
Chapter 10 本文 側注 True or False? Comprehension Exercise Activity A Activity B	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1), (2) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1) 3(2) 2(1)ア, 3(2) 2(1)ウ, エ, 2(2)エ, 3(2)	72,73 頁 72,73 頁 73 頁 74,75 頁 76 頁 77 頁 77 頁	4
Chapter 11 本文 側注 True or False?	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1), (2) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア	78,79 頁 78,79 頁 79 頁	4

Comprehension Exercise Activity A Activity B	3(1) 3(2) 2(1)ア, 3(2) 2(1)ウ, エ, 2(2)エ, 3(2)	80,81 頁 82 頁 83 頁 83 頁	
Chapter 12 本文 側注 True or False? Comprehension Exercise Activity A Activity B	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1), (2) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1) 3(2) 2(1)ア, 3(2) 2(1)ウ, エ, 2(2)エ, 3(2)	84,85 頁 84,85 頁 85 頁 86,87 頁 88 頁 89 頁 89 頁	4
Chapter 13 本文 側注 True or False? Comprehension Exercise Activity A Activity B	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1), (2) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1) 3(2) 2(1)ア, 3(2) 2(1)ウ, エ, 2(2)エ, 3(2)	90,91 頁 90,91 頁 91 頁 92,93 頁 94 頁 95 頁 95 頁	4
Chapter 14 本文 側注 True or False? Comprehension Exercise Activity A Activity B	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1), (2) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1) 3(2) 2(1)ア, 3(2) 2(1)ウ, エ, 2(2)エ, 3(2)	96,97 頁 96,97 頁 97 頁 98,99 頁 100 頁 101 頁 101 頁	4
Chapter 15 本文 側注 True or False? Comprehension Exercise Activity A Activity B	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1), (2) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1) 3(2) 2(1)ア, 3(2) 2(1)ウ, エ, 2(2)エ, 3(2)	102,103 頁 102,103 頁 103 頁 104,105 頁 106 頁 107 頁 107 頁	4
Chapter 16 本文 側注 True or False? Comprehension Exercise Activity A Activity B	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1), (2) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1) 3(2) 2(1)ア, 3(2) 2(1)ウ, エ, 2(2)エ, 3(2)	108,109 頁 108,109 頁 109 頁 110,111 頁 112 頁 113 頁 113 頁	4
Chapter 17 本文 側注 True or False? Comprehension Exercise Activity A Activity B	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1), (2) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1) 3(2) 2(1)ア, 3(2) 2(1)ウ, エ, 2(2)エ, 3(2)	114-117 頁 114-117 頁 117 頁 118,119 頁 120 頁 121 頁 121 頁	5
Chapter 18 本文 側注 True or False? Comprehension Exercise Activity A Activity B	2(1)イ, 2(2)ウ, エ, 3(1), (2) 2(2)ア, 3(2) 2(2)ア 3(1) 3(2) 2(1)ア, 3(2) 2(1)ウ, エ, 2(2)エ, 3(2)	122-125 頁 122-125 頁 125 頁 126,127 頁 128 頁 129 頁 129 頁	5
Optional Reading 本文 側注	2(1)イ 2(2)ア, 3(2)	130-133 頁	6
Listening Point	2(2)ア, エ, 3(1), (2)	144,145 頁	2
		計 160 頁	112

※総授業数は、週 4 時間、年間約 28 週として計算し、112 時間とした。

※Vocabulary Building 1-3, Discourse Marker のまとめ, Hot Topics は各学校で弾力的運営を想定している。